

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800059		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム市川国分		
所在地	千葉県市川市国分 2 - 10 - 20		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマンネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2 - 10 - 15		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を基本とし、ご入居者様の尊厳を大切に、自尊心を傷つけず、個別の健康状態や嗜好、行動性を詳細にし、個人個人にあったケアを重視しています。また日常も、出来る限りの事をして頂き、残存機能を維持できる様支援しております。温かい家庭環境を維持し、お互いが協力しあえるグループホームを目指しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフをサポートします・心を込めた親切なサービスに努めその心を磨き続けます・地域の人々とのふれあいを大切にします」との法人の運営理念実現のため、特に職員全員で話し合い納得した上で「根拠のある支援」の実践に努めている。一人ひとりの今したいこと・出来ることを見極め、個性を尊重し残存機能を維持できるようケアプランに反映し、日常生活の中で実践して頂き「その人らしい自立した生活の維持・継続」をして頂けるよう支援している。アンケートで全ての家族が「全ての職員が生き生きとしている」と回答している通り、入居者と職員が明るく笑顔で過ごしている姿が印象的であった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの理念をスタッフが共有しており、スタッフ丸となって、ご入居者様を支援しています。	愛の家グループホームの3つの運営理念と実現するための3つのこだわりを職員間で共有するようにしている。特に利用者が今したいこと、今出来ること出来ないことを再確認しながら、あいまいな支援をしないように職員と話し合いながら、利用者中心の根拠ある支援をするよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会や自治会の催しものの参加は、継続的に行ってはいるが、日常的とまでは、言えないが、今後更なる自治会との密な交流をしていきたいと考えている。	盆踊りや秋祭りに愛の家の席を設けて頂き全員が参加している。老人会にも毎月参加している。近隣の農家の方からトマトを頂いたり、毎日買い物に行くスーパーで知り合いの方と挨拶したりと地域との交流をしている。	近くの公園の集会所で認知症サポーター講習をしませんかとの投げかけがあり、計画中とのことであり、是非実現され、地域での認知症啓蒙に一役買われることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行っているが、ホーム発信での勉強会等は伝えておらず、努力が必要かと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催している。参加者が少なく、様々な意見が出る事があまりないが、意見を頂いた際は、サービスへ活かすよう努めている。	家族・自治会長・民生委員・地域包括支援職員等の参加を得て、入居者状況・ホーム内状況・事故報告・活動報告等を議題として開催している。防災訓練を見ていただいたり、頂いたご意見をサービスに活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者、地域包括支援センターの担当者と連絡を取り合い、助言や協力を頂いている。	介護保険課に書類提出時にホームの取り組みを報告したり、地域包括支援センターの担当者と連絡を取り合い、ボランティアを紹介して頂く等協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを元に、身体拘束がないケアに努めている。夜間帯のみ、施錠を行っている。	日中の施錠については、見守りと出ていったらついてゆけば良いだけですと話し合い施錠を止めた。自分が何の理由もなく「座って！」と言われたらどうするか等具体的な事例で拘束についての認識を高めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基本とし、全職員が意識を持って取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を十分理解をしている。職員は、全てを理解している状態ではないが、マニュアルを用意し、支援できる体制にはなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が中心となって、説明を行っている。理解、納得をして頂いた上で、ご入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が、御家族様の意見、要望を聞き入れる事ができ、検討が必要なものに関しては、ミーティングで話し合い、結果を報告している。	面会時に居室担当者や他の職員が誰でもご家族の意見や要望を聞けるようにしている。「面会に行く前に電話をしなきゃいけないですか？」いつでも気軽に来て、職員に何でも気軽にお話し下さい。職員が聞いた意見等で検討が必要なのはミーティングで話し合い、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	支援に関する意見、業務に関する意見は、その時、その時に聞き入れ、反映していけるよう努めている。	ガーデニング・食材・介護用品・日用品係など担当職員に任せ、考えを尊重している。会議等の場でなく日常的に業務に関する意見を気軽に話し易いようにしている。検討を要することはミーティングで話し合い反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートなどを取り、働きやすい環境を作っている。なお、そのアンケートは、実行、回答できる体制を取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、ミーティングの時間を利用し研修は行っているが、外部への研修は、一部のスタッフしか受けていない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流を図る機会が設けられており、他ホームから学んだ事を活かせるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントを細かく取り、日常生活の中でも、傾聴する姿勢を常に持ち、信頼関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の話をじっくりと聞き、安心して、サービスが利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ全員が、状況を把握し、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御家族様の「できる事」を沢山見つけ出し、少しでも自立した生活を送って頂けるよう、全スタッフが意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様も御本人様を支える大事な立場である事を認識して頂く為に些細な事でも、報告をし、情報の共有に努めている。毎月、月末に近況報告を書面にてさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外では、民生委員、仕事場の旧友、知人の方の訪問があります。常時面会に受け付けています。	元住んでいた近所の方や仕事仲間の友人が毎月のように訪ねてきたり、馴染みの美容院に家族がお連れしたり、墓参りに行ったり、大晦日に帰宅しお正月を過ごす方等馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や社交性などを理解し、良好な関係が築けるよう声かけ等行っている。お互い協力しあいながら生活できる環境を作っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から御本人の意向や希望が聞き取れるよう、全スタッフが意識して行っている。	表情や手を握る強さなどの動作、言い方などから本人の思いをくみ取っている。今までの生活歴を家族からも聞き、好きだったことや馴染みのことを続けてもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや御家族との会話から得た情報を共有し、把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のカンファレンスの他にノートなどを活用し、日々変化する状態を全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のカンファレンスで、全スタッフが意見を交換し、その結果をプランに活かす事ができている。	プラン原案に対して職員にアンケートをとり、カンファレンスにてアンケートの回答をもとに職員の意見をまとめプランに反映させている。家族にも面会時や電話にて意向をきいている。本人の動作や状況で気になることもカンファレンスで話し合っている。	家族の意見もきいてプランを作成しているが、家族の意向をゆっくりと聞けるようサービス担当者会議の開催を期待します。また、センター方式の導入を検討しているようなので、前向きに取り組んでいただけたらと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートなどに細かく記入し、共有できるよう努め、状態に応じ、ケアの見直しができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応する為、より多くのサービスを把握し、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を行う事はできているが、もう少し地域資源を把握し、利用するべきだと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要であれば、かかりつけ医の往診を適宜行っている。	医師の往診、訪看、訪問歯科ともに週1回となっており、往診記録や治療内容報告書にて職員間での情報共有を図っている。外来受診は精神科、泌尿器科となっており、家族と職員とで同行し、外来通院記録にて職員間で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡が取れる体制である。様々な気付きも看護師に相談し、個々にあった支援ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できる限りの情報交換は行っているが、不足している所もあると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院・ご家族様と連携を取りながら、入院中・入院後に備え情報収集をして、ご家族様と相談しつつ、退院後も的確に対応出来る様にまた、ご本人様安心・快適に過ごして頂ける様努めている。	入居時に、「重度化した場合における医療体制指針」を説明している。看取りの条件が整った場合には、家族ともその都度、出来ることと出来ないことを説明するとともに話し合っていく。	重度化や終末期に向けた方針を事業者内で共有できるよう、研修等に取り組まれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、定期的な勉強会等行っているが、実践力については、個々のスタッフでばらつきがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制が、築けておらず、整備が必要である。23年度中にスプリンクラーの設置を予定しています。	スプリンクラー設置済み、備蓄の準備もある。防災訓練も行っている。近隣在住の職員が多く、10分以内に5人が集まれる環境にある。	夜間を想定した召集訓練の実施を期待します。また、避難訓練に地域の方に参加を呼び掛けるなど、地域との協力体制を築いておくことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	鍵の掛かるの書庫にて個人ファイルの保管。プライバシー、ご本人様の意思を尊重しております。声かけについてはご入居者様に合った対応をしています。記録の記載はご入居者に見えない配慮をしています。	トイレのお誘いは本人のそばで小さな声で行い、職員が言われて嫌なことは本人に対しても言わないようにしている。ご利用者をお願いするときには、敬意をもってお願いしている。	全職員の認識を統一できるよう研修を検討されているとのことなので、実行されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、自己選択が出来る場面を作りだそうと努めてはいるが、もっと引き出せるようなゆとりある支援が必要だと思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課・体調に合わせてながらスタッフは行動し、無理のないその人らしい1日を送って頂ける様にしております。また、選択、意思尊重を図れる様に考慮しながら、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の好みなどに合わせた身だしなみ、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアプランを基本としてご入居者様のADLを考慮し、準備の段階から後片付けまでの間を参加して頂ける工夫、残存機能の維持・選択の意思表示の出来る支援を心がけている。	食材のカットや炒めなどの調理、盛り付け、食器洗いと拭くまでを利用者とともにやっている。月に1～2回外食や出前を楽しみ、おやつは手作りすることもある。年末、御節を手作りで用意したりと行事食にも力をいれている。利用者の好みを聞き、買い物も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材については、栄養管理日誌を基本としながら食材を使用し、栄養のバランスを考えながら、体型や嗜好に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、ご様子に合わせた支援をしています。また、月/3回(毎週木曜日)歯科との連携を図っており早期発見、早期治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者の排泄リズムを把握し羞恥心に配慮した対応、洗淨、もしくは、清拭を使用して清潔を保持し、無理、負担の少ないように支援している。	利用者の排泄リズムを把握しつつ、それぞれの行動を見てトイレ誘導の声かけをしている。日中のリハパン使用は2名、その他の方はパット使用の方も含め布パンツを使用している。夜間もリハパン使用の方は3名であり、おむつ使用者はいない。排泄の自立を維持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用だけではなく、運動や食事の工夫などを行う事ができている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、日程の決まりがあるが、出来る限り、本人の希望に添えるよう支援している。	「入りたい人が入れるようにしたい」という意識を持ち支援し、週3回程度の入浴となっている。夕食後に入浴する方もいる。ゆず湯や菖蒲湯を楽しむとともに、入浴剤も使用している。個人用シャンプーなどの使用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間、体調に合わせて休憩して頂く支援を行っている。安眠確保の為、個々に合わせた排泄の声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師と連携を図りながら、薬剤の内容把握し、服薬マニュアルに沿って間違えのない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を見つけ出し、1日を有意義に過ごせるよう努めてはいるが、情報収集が足りない方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を立て、月1回以上の行事開催と、個別ケアの実施を行っています。また、ご入居者様全員が、順番に外に出る機会を設け、買い物・散歩に参加して頂き、社会性を感じて頂ける様支援している。	出かけるのと知り合いに会うことも多い。週に3回前後は公園までの散歩を楽しんでおり、毎日、買い物か散歩を行えている。柴又、江戸博物館等毎月1回以上行事外出を実施している。居酒屋などの個別外出にも取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを考慮し、入居前に金銭管理の説明し、ご本人様、ご家族様の承諾の上で、金銭保有して頂いており支援致します。しかし現在は、個人保有者はいない状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にとまではいかないが、希望があれば、支援している。携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、入居者様と清掃を行い、清潔保持に努めている。季節に合わせて装飾品や外出時の写真などを飾り、季節感を取り入れている。	入居者全員と掃除を行っている。リビングにはソファもあり、日中の多くをリビングで過ごす方が多い。行事ごとの写真、カレンダー、習字、塗り絵、大きな絵も飾られており、絵は毎年掛けかえられている。飾りは季節ごとにかえている。食事の時には音楽を楽しむ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心して過ごせるような座席配置やTV前にソファを置き、ゆったりとした時間を過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面等を配慮しつつ、自宅で使用していたご本人にとって馴染みがあり使いやすいもの、趣味を活かして居室に入れ、安心して頂けるようご本人様とご家族様と住みやすい環境の整備、工夫を行っています。	カーテン、電気、ベッド、エアコンが完備されている。入居者が持参されたものとしては、ソファ、ダンス、テレビ、ポスター、リクライニングチェア、オットマンなどがある。耐震の突っ張り棒を設置したり、ベッドの配置を変えたりと安全面での配慮も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、個々の状態に合わせた物の配置を心がけ、共有部分は、分かりやすい表示物を使用している。		